

### 質問 I-2 ⑤と⑥に係る根拠資料等

**[質問 I-2] ⑤** なぜ審査しないのか。バックチェック、バックフィットすべきではないか  
中央防災会議の震度評価を元に耐震安全再審査をするべきではないか

内閣府中央防災会議の日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策検討ワーキンググループの報告書(以下「中央防災会議報告書」)では日本海溝モデルの推定地震規模のモーメントマグニチュードMwが9.1とされている\*1)。しかるに国は山崎誠議員提出内閣衆質209第19号の答弁書において「審査では、敷地前面に今回の『日本海溝モデル』と同規模のMw9クラスのプレート間地震を設定し地震動評価を行っていることを確認しています。」としているが、これは東日本大震災と同じMw9.0で評価をしているのではないか\*2)。Mw9.0と9.1とではエネルギーが1.4倍ほど違う\*3)。9.1の評価がされていないのならば新知見として再審査を行うべきではないか。

\* 1) 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の対策について 報告書 令和4年3月22日  
3頁 II 想定する地震動・津波 1. 津波断層モデル検討の考え方

「推定された地震の規模は、日本海溝（三陸・日高沖）モデルがモーメントマグニチュード（以下「Mw」という。）9.1、千島海溝（十勝・根室沖）モデルがMw9.3である。」

\* 2) 第176回核燃料施設等の新規性基準適合性に係る審査会合平成28年12月26日  
資料1-1 「再処理施設、廃棄物管理施設、MOX燃料加工施設 新規制基準適合性に係る審査を踏まえた検討・反映事項について」表 日本原燃提出資料  
地震 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動 プレート間

・基本モデルについては、地震規模を「想定三陸沖北部の地震（Mw8.3）」から「2011年東北地方太平洋沖地震を踏まえた地震（Mw9.0）」に見直した。

・複数個設定したSMGAのうち敷地に最も近いSMGAを敷地直近に移動することで、SMGA位置の不確かさを考慮した。

\* 3) マグニチュードをM, 地震のエネルギーをEとすると

$\log_{10}E=4.8+1.5M$  この関係式からMw9.1と9.0のエネルギーを比べると1.41倍になります。

**[質問 I-2] ⑥** このプロジェクトを抜本的に見直し、中止すべきではないか

中央防災会議は公共施設等は震度6強以上の耐震を要請しているが、山崎誠議員提出内閣衆質209第19号の答弁書において、「内閣府『日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会』で六ヶ所村が震度6強の大地震が想定されている\*5)。これに六ヶ所再処理工場の施設設備は耐えることができるのか」とする質問に国は答えていない。「中央防災会議報告書」30頁に③公共施設等の耐震化として「これらの重要施設や津波避難ビル、不特定かつ多数の者が利用する一定規模以上の特定建築物等においては、例えば震度6強以上の揺れに対しても十分な安全性を確保できるよう、耐震性に余裕を持たせることも検討する必要がある。」\*4)とある。なぜ再処理工場が震度6強に耐えるかどうか検討しないのか。(末尾特別資料参照)

早急に検討できないのであれば、このプロジェクトは中止すべきではないか。

\* 4) 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の対策について 報告書 令和4年3月22日  
30頁 V 具体的実施すべき対策 2.事前防災 (2) 地震対策

③公共施設等の耐震化

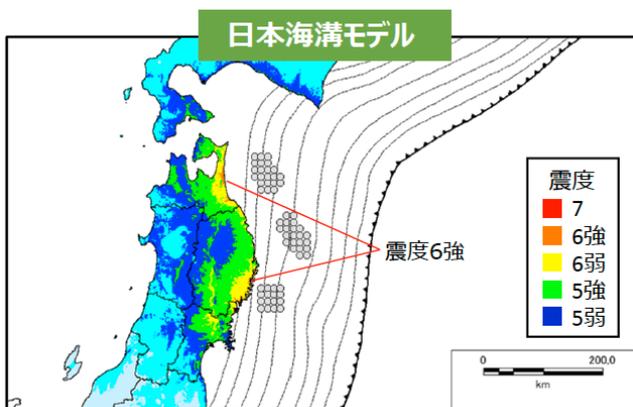
○ これらの重要施設や津波避難ビル、不特定かつ多数の者が利用する一定規模以上の特定建築物においては、例えば震度6強以上の揺れに対しても十分な安全性を確保できるよう、耐震性に余裕を持たせることも検討する必要がある。

\* 5) 令和2年5月21日 原子力規制委員会第41回技術情報検討会資料41-1

「内閣府「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデルの検討について（概要報告）」について（案）」1頁～2頁 表1

表1 原子力施設所在市町村における津波高及び震度の推計値

サイト	所在市町村	津波高 <sup>1</sup>	震度 <sup>2</sup>
大間	大間町	10.3m(太平洋側)	5強
六ヶ所	六ヶ所村	10.7m	6強
女川	石巻市、女川町	13.3m(石巻市) 11.7m(女川町)	5弱
福島第1	大熊町、双葉町	14.1m(大熊町) 13.7m(双葉町)	5弱未満
福島第2	楢葉町、富岡町	13.2m(富岡町) 10.9m(楢葉町)	5弱未満
東海第2、JRR-3 <sup>3</sup> 及び東海再処理 <sup>4</sup>	東海村	5.0m	— <sup>5</sup>
HTTR <sup>6</sup>	大洗町	4.8m	— <sup>5</sup>

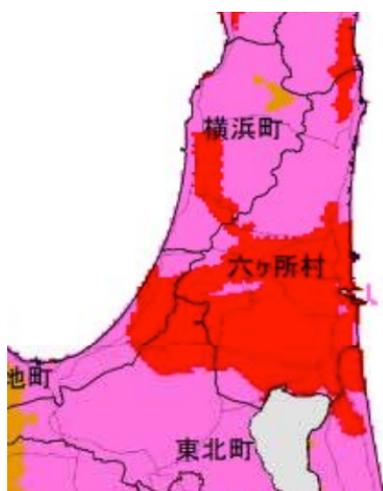


←内閣府防災情報のページ「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策検討ワーキンググループ」のURL\*の「被害想定について」の5.「日本海溝・千島海溝沿いにおける最大クラスの震度分布・津波高等の推計」より（六ヶ所：震度6強）  
[http://www.bousai.go.jp/iishin/nihonkaiko\\_chishima/WG/index.html](http://www.bousai.go.jp/iishin/nihonkaiko_chishima/WG/index.html)

[特別資料] 青森県の独自調査「平成24・25年度青森県地震・津波被害想定調査」  
[https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kikikanri/bosaikikikanri/assumedSurveyH24\\_25.html](https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kikikanri/bosaikikikanri/assumedSurveyH24_25.html)  
太平洋側海溝型大地震 Mw:9.0 考え方「1968年十勝沖地震及び2011東北太平洋沖地震の震源域を考慮し、青森県に最も大きな地震・津波の被害をもたらす震源モデルを設定」

250mメッシュ 地表面上  
計測震度 気象庁震度#

6.5以上	震度7
6.0 - 6.5	震度6強
5.5 - 6.0	震度6弱
5.0 - 5.5	震度5強
4.5 - 5.0	震度5弱
3.5 - 4.5	震度4
3.5未満	震度3以下



赤丸内が六ヶ所再処理工場震度6強地域に含まれています。道路と比べ参照。

・震度6強は約830～1500ガル  
・再処理工場Ss基準地震動700ガル

(永田)